

# 第17回 周南市美術展2019 目録

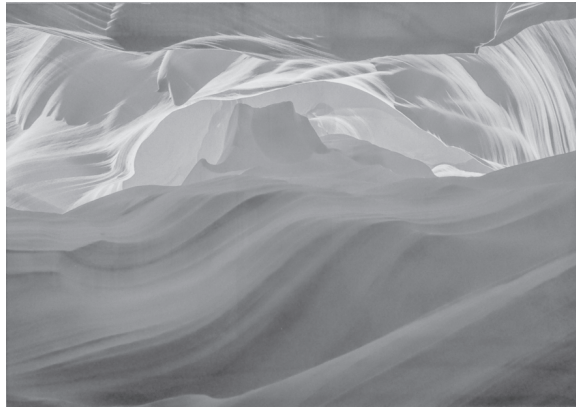
会場 周南市美術博物館

前期 書・写真 令和元年10月16日(水)～10月20日(日)

後期 平面・立体 令和元年10月23日(水)～10月27日(日)

9時30分～17時

市美展大賞・準大賞作品は、前期・後期通じて展示します



市美展大賞 写真 「光訪る紅の谷間」 溝口 智司

主催 周南市

主管 周南市美術展運営委員会

後援 周南文化協会

協力 周南書道連盟 周南陶芸連盟 周南美術連盟 周南手工芸連盟 周南水墨画連盟

周南写真連盟



## 第17回周南市美術展2019 審査員紹介

### 平面の部

まぐや よしお  
**菊屋 吉生** (山口大学教授、美術史学者) 1954年生

立命館大学文学部史学科卒業 (1973年)

山口県教育委員会文化課美術館準備室学芸員 (1978年)、山口県立美術館学芸員 (1979年)、第1回倫雅美術奨励賞受賞 (1989年)、山口県メダル栄光文化賞受賞 (1989年)、山口県立美術館普及課長 (1996年)、山口大学教育学部助教授 (1997年)、山口大学教育学部教授 (2006年)、山口大学国際総合科学部教授 (2015年)

主な著書に、『昭和の美術第1巻～第6巻』(毎日新聞社1990～1991年 共著)、『日本美術全集23巻 近代の美術Ⅲ』(講談社1992年 共著)、『日本美術館』(小学館1997年 共著)、『別冊太陽 東山魁夷—日本人が最も愛した画家』(平凡社2008年 監修・共著)ほか  
専門は日本近代美術史

おだ よしろう  
**小田 善郎** (画家) 1951年生

福岡教育大学卒業 (1975年)

山口県美術展最優秀賞受賞 (1987年)、山口県芸術文化振興奨励賞受賞 (1988年)、第32回安井賞展入選、第22回西日本美術展大賞受賞 (1989年)、第14回青木繁記念大賞展わだつみ賞受賞 (2005年)、「小田善郎作品展～子ども、そして彼方へ～」(周南市郷土美術資料館・尾崎正章記念館、2008年)、「東日本大震災復興支援文化財レスキュー・チャリティ・カレンダー」作品参加 (2011年)、第68回山口県美術展覧会大賞 (2014年)、「小田善郎作品展～コドモドコ」(周南市郷土美術資料館・尾崎正章記念館、2018年)、小田善郎展 (八千代の丘美術館、2018年)、山口県文化功労賞受賞 (2018年)

### 立体の部

よし か はたお  
**吉賀 将夫** (陶芸作家) 1943年生

東京芸術大学大学院修了 (陶芸専攻) (1969年)

山口県美術展 (文部大臣奨励賞1975年、特別賞1978年)、山口大学助教授 (教育学部) (1976年)、現代工芸美術家協会会員 (1978年)、日本現代工芸美術展 (会員賞1979年、NHK会長賞1983年)、山口県芸術文化振興奨励賞 (1979年)、日展 (特選1983・1985年、文部大臣賞1996年)、現代工芸美術家協会理事 (1988年)、日展会員、山口大学教授 (1990年)、日展評議員 (1996年)、山口県選奨 (芸術文化功労者) (1996年)、日本芸術院賞 (2000年)、日展理事 (2000年)、中国文化賞 (2001年)、山口大学名誉教授 (2006年)

ひとくわだ とおる  
**一蹴田 徹** (広島大学大学院教育学研究科教授・彫刻家) 1964年生

千葉大学大学院教育学研究科美術教育専攻修了 (1990年)

日展 (特選2005・07年、審査員2015年)、日彫展 (奨励賞1995・96・97年、日彫賞2001・02年、西望賞2007年、審査員2010・19年)、白日展 (白日賞1989年、長島美術館長賞1997年、吉田賞2009年ほか)、現代日本具象彫刻展 (1992・94・98年)、昭和会など出品、受賞歴多数  
個展「ヒロシマのピエタ」展 (広島市立本川小学校・被爆建物 2007年)  
第15回エネルギー美術賞 (2009年)、第26回県民文化奨励賞 (2010年)ほか

## 書の部

<sup>すみ</sup>**角** <sup>ひろゆき</sup>**廣行**（書家） 1951年生

大東文化大学中国文学科卒業

元早稲高等学校教頭（2012年3月退職）、元読売書法会理事（2013年退任）

日展入選4回、下関市芸術文化推興奨励賞受賞

現在、書法研究墨美主宰、下関書道連盟会長、下関市文化協会副会長

<sup>もり</sup>**森** <sup>てつし</sup>**哲之**（広島文教大学教授・書家） 1969年生

新潟大学大学院教育学研究科修了

共著に『書道特別展 没後100年 中林梧竹展』（図録）（徳島県立文学書道館 2014年）、

『佐々木盛行氏・日野俊顕氏 中林梧竹研究資料調査報告書』（小城市立中林梧竹記念館

2015年）、作品集『書のかたち－書の協奏－第二集』（2017年）

展覧会「書のかたち四人展－書の協奏－」（福岡市美術館 2006年）、「書のかたち展Ⅱ」

（久留米シティプラザ 2017年）、「国際蘭亭筆会書法展 インドネシア・ジャカルタ展」

（ネラヤン国際会館 2018年）

全国大学書道学会会員、全国大学書写書道教育学会会員、書学書道史学会会員、「公募 公

益財団法人日本習字教育財団 学術研究助成」審査委員・査読委員、日本蘭亭筆会国際理事

## 写真の部

<sup>ふな お</sup>**船尾** <sup>おとむ</sup>**修**（写真家） 1960年生

筑波大学生物学類卒業

『アフリカ 豊饒と混沌の大陸（全2巻）』、『UJAMAA』、『循環と共存の森から』、『世界のともだち⑭南アフリカ』など著書・写真集多数

写真集『カミサマホトケサマ』で、第9回さがみはら写真新人奨励賞受賞、第18回林忠彦賞最終候補（2009年）

写真集『フィリピン残留日本人』で第25回林忠彦賞、第16回さがみはら写真賞をW受賞（2016年）

最新刊に『カミサマホトケサマ 国東半島』

<sup>ふじおか</sup>**藤岡** <sup>あや</sup>**亜弥**（写真家） 1972年生

日本大学芸術学部写真学科卒業

2008年新進芸術家海外研修制度（文化庁）の研修員としてニューヨークに滞在、2012年帰国、現在広島を拠点に活動

写真集に『さよならを教えて』（ビジュアルアーツ出版 2004年）、『私は眠らない』（赤々舎 2009年）、『川はゆく』（赤々舎 2017年）

日本写真協会新人賞（2010年）、第41回伊奈信男賞（2016年）、第43回木村伊兵衛写真賞（2018年）、第27回林忠彦賞（2018年）

平 出品数108 (市美展準大賞1・市美展賞5・奨励賞21・入選58)

No.	タイトル	氏名	賞
1	記憶の森ーみずうみ	徳原 貴美子	市美展準大賞
2	息をきらしてパパおかえりー	秋本 町子	市美展賞
3	未来への旋律	渡邊 俊行	市美展賞
4	新徳山駅発	中谷 梅若	市美展賞
5	風景	藤井 美彦	市美展賞
6	ココロオドル	吉田 裕子	市美展賞
7	怒涛の轟き	村井 日出生	奨励賞
8	裏庭の熊谷草	藤井 剛	奨励賞
9	冬の華	原田 勝造	奨励賞
10	雨上がりの錦帯橋	山野井 三郎	奨励賞
11	補色の房	由本 正文	奨励賞
12	積み木	佐藤 ミナエ	奨励賞
13	ひと足おそかったア……	秋本 町子	奨励賞
14	藤の花とカワセミ	小西 美佐江	奨励賞
15	Mysterious Sea	森口 須美恵	奨励賞
16	Aqua Sound 2019	浅田 洋二	奨励賞
17	2013年10月 櫛ヶ浜漁港の夜景	藤井 和彦	奨励賞
18	青の都 (サマルカンド)	升 節子	奨励賞
19	守り神	安部 綾佑乃	奨励賞
20	ダチョウ	中股 恵子	奨励賞
21	愛のトンネル・ウクライナ	磯辺 亜夫	奨励賞
22	光の国へ	小田 妙美恵	奨励賞
23	優しく触れて	大熊 俊雄	奨励賞
24	シュールな夢	森重 弘子	奨励賞
25	朝霧のポピー	森原 宏恵	奨励賞
26	Salene II	田嶋 杏菜	奨励賞
27	華香る夜	福永 邦子	奨励賞
28	耳をすまして	田辺 豊和	入選
29	優雅な花・ダリア	若林 奉之	入選
30	アジサイの森	若林 奉之	入選
31	山のあなたの空遠く	秋貞 啓子	入選
32	山の朝	長藤 則男	入選
33	ハロウィン	蔵田 省三	入選
34	至福の時	神田 千代子	入選
35	神木	吉村 佑一	入選
36	水辺の風景	松原 セツ子	入選
37	春 徳地風景	山野井 三郎	入選
38	春の城	安澤 幸枝	入選
39	夏の彩り	松浦 清子	入選
40	みつめて	細山田 洋子	入選
41	写真を撮る女 (ハルシュタット湖畔)	後藤 武司	入選
42	庭の訪問者 (鳩)	竹内 立子	入選
43	待つ	米本 豊弘	入選
44	相倉合掌造り集落の秋	米本 豊弘	入選
45	ソフィーは陽光の中で	石原 陽一	入選
46	豊作	町田 敏子	入選
47	未だこれから	恵村 正昭	入選
48	エフェソスⅡ (トルコ)	佐々木 祥子	入選
49	早春の棚田	三宅 司郎	入選
50	孫	松原 覺衛	入選
51	SEIMEIーⅢ	森口 須美恵	入選
52	永源山公園から	高橋 功夫	入選
53	Ignis Sound 2019	浅田 洋二	入選

No.	タイトル	氏名	賞
54	刹那、桜に包まれて	池田 ひとみ	入選
55	象	福谷 浩志	入選
56	雪中樂閑	岩武 哲	入選
57	三見橋	井生 祥吾	入選
58	やすらぎ	惠本 正彦	入選
59	秋惜しむ	池田 郁子	入選
60	古城	岡 明代	入選
61	令和-希望の光を求めて-	岡 明代	入選
62	コロッセオ	清水 ミヨ子	入選
63	春爛漫	清水 ミヨ子	入選
64	LONE WOLF (一匹狼の群れ)	伊藤 加奈子	入選
65	極	池田 美和	入選
66	アロワナ	池田 美和	入選
67	ヒロ君 おもしろいことあるよⅠ	津田 鈴子	入選
68	ヒロ君 おもしろいことあるよⅡ	津田 鈴子	入選
69	“A-hum”	大田 泰江	入選
70	父娘	三宅 恵子	入選
71	不思議なかんけいⅠ	菅本 典子	入選
72	ふる里	植村 侃司	入選
73	華の組曲	橋本 恵子	入選
74	雲海越前大野城	原 公亮	入選
75	ウエディングステップ	久村 ゆかり	入選
76	家族 あの頃	磯村 京子	入選
77	河原の出会い	安本 恵子	入選
78	ヤッホー!	明石 すみえ	入選
79	一株の花	福永 邦子	入選
80	枯渴	弘中 大雅	入選
81	まちを呑む	松原 快	入選
82	ドウケイ	東中村 華帆	入選
83	鏡の中の自画像	渡邊 高弥	入選
84	日本	斉藤 遥奈	入選
85	Venezia	井上 まいこ	入選

**立体** 出品数38 (市美展準大賞1・市美展賞5・奨励賞8・入選16)

No.	タイトル	氏名	賞
1	雨水	木本 多津子	市美展準大賞
2	軌道	藤井 輝昭	市美展賞
3	フェニックス・Ⅱ	弘中 敬	市美展賞
4	宇宙を飛ぶ幻想の魚	中村 達雄	市美展賞
5	Black Flower	渡邊 俊行	市美展賞
6	本物と皮革 (比較) して下さい	どんぐり一座	市美展賞
7	荒海	中西 正	奨励賞
8	罅釉掛分け水盤	藤井 輝昭	奨励賞
9	モデルは誰?	川中 和好	奨励賞
10	布目幾何文花器	山根 公子	奨励賞
11	華炎	石光 順一	奨励賞
12	PINO	有田 英文	奨励賞
13	萩焼壺	松本 憲夫	奨励賞
14	萩焼壺	松本 るい子	奨励賞
15	令和の花瓶	野島 勝利	入選
16	枯淡	藤井 滋人	入選
17	彩雲	藤井 滋人	入選

No.	タイトル	氏名	賞
18	松本城 (もどき)	河本 肇	入選
19	創造の魚	中村 達雄	入選
20	辰砂花器	井上 馨	入選
21	ハナの差	萱嶋 通孝	入選
22	着物テディベア	有吉 啓子	入選
23	大日如来	林 敏廣	入選
24	永遠の祈り	渡邊 修	入選
25	華器	吉村 靜治	入選
26	みんなちがって、みんないい	西尾 司	入選
27	周南ケロケロ楽団	小林 和子	入選
28	黒彩流紋変型花器	角本 福美	入選
29	萩茶碗	松本 憲夫	入選
30	萩焼香炉	松本 るい子	入選

書 出品数38 (市美展準大賞1・市美展賞5・奨励賞7・入選18)

No.	タイトル	氏名	賞
1	大輪の花	村田 美由紀	市美展準大賞
2	牧水のうた	山本 伸	市美展賞
3	若山牧水、芭蕉 俳句	市川 チヅ子	市美展賞
4	椰子の實	藤井 宗男	市美展賞
5	白居易詩	森脇 萬雄	市美展賞
6	暎雪読書	田中 康彦	市美展賞
7	花と咲け	田本 啓子	奨励賞
8	晩夏～ひとりの季節～	高田 幸宏	奨励賞
9	万葉集	手嶋 孝子	奨励賞
10	蒼馬を見たり	樽本 充弘	奨励賞
11	晩秋	橋本 美代子	奨励賞
12	李晏詩	山賀 俊宏	奨励賞
13	論語 泰伯	江藤 マサ子	奨励賞
14	四字熟語	久田 幸範	入選
15	万葉集のうた2首	関口 正美	入選
16	万葉集	中津井 和子	入選
17	「庭」(三好豊一郎詩)	藤井 邦江	入選
18	淵黙	田中 寿代	入選
19	地橙孫の句二首	中村 まち子	入選
20	無盡蔵	末延 和子	入選
21	螢の夜	中田 和恵	入選
22	きくあわせ	藤末 廣子	入選
23	造像記	松本 勝	入選
24	白秋の歌	中村 幸恵	入選
25	木津柳芽の句	有田 博子	入選
26	矜持ある風景	大重 栄子	入選
27	李白詩	小林 純子	入選
28	李晏詩 遊龍門廻投超化寺	杉本 晴美	入選
29	海の方へ	藤井 由希子	入選
30	還汝嘉詩	田畑 美代子	入選
31	游雲驚龍	下本 信子	入選

写真 出品数132 (市美展大賞1・市美展準大賞1・市美展賞5・奨励賞25・入選70)

No.	タイトル	氏名	賞
1	光訪る紅の谷間	溝口 智司	市美展大賞
2	わぁ！すごい	中村 啓太郎	市美展準大賞
3	アンニュイ	重弘 佳子	市美展賞
4	静と動	立野 智	市美展賞
5	虚像	新井 正義	市美展賞
6	暖色の中で	益本 誠二	市美展賞
7	お願いごと！	藤本 武昭	市美展賞
8	飛翔	宮崎 紀与二	奨励賞
9	シルエットロマンス	戸村 愛子	奨励賞
10	SIGNAL COLOR	福田 和紀	奨励賞
11	高嶺の花	松田 文夫	奨励賞
12	星空に浮かぶ反射炉	竹林 賢二	奨励賞
13	仲良し3人娘	一柳 敬行	奨励賞
14	霧の錦帯橋	西田 あや子	奨励賞
15	曲ったローカル線	岩本 武夫	奨励賞
16	追う	大木 洋子	奨励賞
17	陽炎	立野 智	奨励賞
18	霧 晴れ	新井 正義	奨励賞
19	五月の頃	内山 和則	奨励賞
20	狙う	町田 弘	奨励賞
21	いにしえの花々	町田 敏子	奨励賞
22	大物ゲット	久原 靖史	奨励賞
23	祭りであっしょい	大田 美和子	奨励賞
24	能登千枚田	手島 信之	奨励賞
25	天空の散歩道	吉光 佑二	奨励賞
26	雨上がりの椿林	橋本 聡	奨励賞
27	日向ぼっこ	辰川 泰朗	奨励賞
28	和菓子人	宮本 和幸	奨励賞
29	未来へ	藤波 恭一	奨励賞
30	初めての化粧	池田 隆夫	奨励賞
31	紫陽花	内田 典孝	奨励賞
32	浜の夕陽	北村 孝志	奨励賞
33	ジャンプ	檜野皮 毅	入選
34	二重奏	福田 賢治	入選
35	メモリー	福田 賢治	入選
36	捕食	重弘 佳子	入選
37	港の風景	河村 志津代	入選
38	風を感じて	河村 志津代	入選
39	ネイチャーの出来事	戸倉 満	入選
40	指名手配	松田 文夫	入選
41	水浴びて	竹林 賢二	入選
42	聖園の巡礼人	一柳 敬行	入選
43	MOMENT (もーめんと)	西田 あや子	入選
44	大合唱	後藤田 稔	入選
45	赤くそまる川面	後藤田 稔	入選
46	空中遊泳	中本 好一	入選
47	火もまた涼し	中本 好一	入選
48	お父さん、目が回る～～。	吉田 和夫	入選
49	蛍の山	宮田 達雄	入選
50	金蛍	宮田 達雄	入選
51	防潮扉の特等席	大木 洋子	入選
52	新年度のスタート	浜田 心仁	入選
53	夏を満喫	深町 勝信	入選



No.	タイトル	氏名	賞
54	奏	原 浩二	入選
55	夏の終わり	吉田 眞純	入選
56	食欲の秋	吉田 眞純	入選
57	青い空へ	立野 昌子	入選
58	マイ・ステージ	大野 伸夫	入選
59	光の道	手嶋 文雄	入選
60	国宝巡り	手嶋 文雄	入選
61	願い事！	出口 幸男	入選
62	無病息災	富安 静夫	入選
63	ライバル	町田 弘	入選
64	待ちに待った日	町田 敏子	入選
65	姫蛭の乱舞	久原 靖史	入選
66	熱っ～！	山上 達也	入選
67	風車を照らす天空の華	飯田 友一	入選
68	楽しむ親子	友森 久子	入選
69	時	生島 鈴枝	入選
70	妖婉	宮本 光代	入選
71	祭りだー	数井 基幸	入選
72	祭だ！祭だ！	吉光 佑二	入選
73	未来の宝	山本 由里子	入選
74	コラボレーション	中村 光雄	入選
75	ウルトラマンに片思い	中村 光雄	入選
76	入り江の朝	橋本 聡	入選
77	幽玄の灯り	小堀 弘	入選
78	霧中の海王丸	小堀 弘	入選
79	新幹線ホームにて	多川 康男	入選
80	なあに～	多川 康男	入選
81	48年ぶりの再会	中村 啓太郎	入選
82	ようしゃ負けんで～ッ！	福屋 重臣	入選
83	三作神楽「せえのォ！」	福屋 重臣	入選
84	なつたび	藤井 和浩	入選
85	我がふるさと、周南	藤井 和浩	入選
86	祈ーInoriー	益本 誠二	入選
87	トキヨトマレ	末永 浩也	入選
88	ご来光	亀井 修一	入選
89	一緒に歩こ。	花田 美知子	入選
90	流木の逆立ち	平岡 正夫	入選
91	あついなぁ～	山本 礼之	入選
92	チュ～～～～♡♡	桑田 昭二	入選
93	からふる	末永 良明	入選
94	楽しい仲間たち	浅原 透	入選
95	みんなの想い	栢 裕樹	入選
96	一休み	柳 美智子	入選
97	村人の絆	柳 美智子	入選
98	“コラボ”	藤本 武昭	入選
99	緑蔭の中	有國 美恵子	入選
100	春の女神Flora	内田 典孝	入選
101	赤い女	内田 鮎美	入選
102	路地裏	内田 鮎美	入選

## 《全体総括》

今回は数年ぶりに再び、審査に参加させていただきました。出品点数は、今年少し出品が減ったことは、いささか気になるところです。ただ、その出品内容に関する以前の審査のときの印象と、今回の印象はそれほど大きな違いは感じませんでした。つまり出品数は若干減ったとはいえ、作品のレベルは全然落ちてはいないと感じました。今回の大賞決定のために各4部門の第一席作品を並べた際も、いずれも完成度の高い力作ぞろいで、どれを大賞としても遜色はないと感じた次第です。

平面部門については後に述べるとして、立体部門は、例年どおり陶芸、鍛金、木彫、手芸作品なども含めた本当に幅広い作品が出品され、審査のご担当は、大変だったと思います。とかく工芸的な作品は、手わざを駆使しながらも、その手わざに埋没してしまっ、立体造形としての表現力をもちえないものになってしまいがちですが、今回の準大賞作品は、どっしりとしたヴォリュームと存在感が際立った独特な造形感覚が印象的でした。書の部門も、漢詩、かな、篆書・篆刻、扇面などヴァラエティーに富んでいて、周南という地域がもつ書道人口のすそ野の広さと多様性を感じた次第ですが、準大賞作品は、その文字の配置、構成あるいはバランスの絶妙さを強く感じた作品でした。そして今回は写真作品が大賞に輝きましたが、他部門に比べて大ききのハンディを抱えがちな写真作品でありながら、その視覚的な強さは他の大賞候補作を圧倒していました。デジタル写真隆盛のなかで、その強みを生かしながらも、素材としての自然風景の造形の妙を見事に象徴化した作品だと思いました。

今回は総じて、各部門ともベテラン勢が活躍したように思います。技法やテクニックの巧みさを強く感じた作品が多かったようです。ただ、いろいろな技法に果敢にチャレンジすることは素晴らしいことですが、そこに固執しすぎて、逆に作りこみすぎてしまう危険性もベテラン勢には気をつけていただきたいと思います。

(審査員長 菊屋 吉生)

## 《各部門総括》

### 平面の部

今回も出品作はヴァラエティーに富み、押し花やキルティングも含んだ楽しい展示になったと思います。また出品作全般に、描く技術のレベルの高さを強く感じた作品が多かったように思いました。とくに準大賞を受賞した「記憶の森—みずうみ」は、その繊細で的確な描写、あらゆる技法を駆使しながら、その創り上げる世界観のユニークさは、出品作のなかではひときわ目立っていました。聞けば作者は、連続入賞をしているベテランの方とのことだったのですが、そこに漂う独特な物語性は、ひと昔前のありふれた幻想性を抜け出たきわめて今風のヴァーチャルな感覚が見て取れ、若々しく瑞々しい感性を感じました。この作品と第一席をあらそったのが「新徳山駅発」で、一見混雑とした画面のなかに、実に繊細で達者な描写が躍動した作品です。細かく線描で描かれた街の喧騒が、見るものを魅了するオシャレで粋な作品といえるでしょう。このほか、鮮やかな緑あふれる光景のなかに、なんととも無機質な人物像を配した「風景」は、現代社会の疎外感や孤独感を、その空虚な画面に見事に託していましたし、「息をきらしてパパおかえりー」は、小品ながら日常の何気ない愛らしい光景を、実に素直に描写して見る者の共感をさそう作品です。自らの表現の本質というものは、けっして特別なものとは限りません。ごく日常のありふれた生活や出来事のなかにこそ、あるものなのです。

(菊屋 吉生)

## 立体の部

総出品数は38点、この中から入賞・入選候補となる作品を投票していきました。1点1点、慎重かつ公正に拝見させていただき、およそ3～4回に渡って選考した結果、30点の入選作品がまず決定しました。このうち、審査員が2人とも推した作品を点数制によって順位づけし、各賞を確定していきました。受賞された方、入選された方、この度は誠にありがとうございます。

この「立体の部」は、工芸（陶芸）から彫刻・立体造形まで分野の異なる作品、また土、木、金属といった様々な素材や技法の違い、具象や抽象といった形態の違い等もあり、大変難しい審査でした。総じて立体として魅力がある作品が入選し、中でも存在感の際立ったものが受賞に至りました。一方で、技術は優れていてもオリジナリティに乏しいもの、表現主題や試みは面白くても技術が不十分なものは、どうしても作品の評価が下がってしまいます。もちろん基本は創造を楽しむことですが、その次の段階として、自分の作品を客観的に見、足りない部分を如何に補うかが、より良い作品を作る鍵になるように思います。次回も期待しています。

(一 楯田 徹)

## 書の部

昨年は、書部門で大賞を頂けたことが、大変印象に残り、今回も大いに期待して審査会場に入りました。公開審査ということもあり、緊張感溢れる空気の中、1点1点確認するように拝見しました。

作品サイズは、大型のものから、小作品まであり、漢字・仮名・漢字仮名交じりの書、篆刻・刻字等さまざまな種類の力作が並び、周南市の書に対する理解度を、感じる事が出来ました。

書は、造形芸術であり、白と黒で表現し、自己主張するものです。そして、特に線質の鍛錬が大切だと考えます。その為には、平素から、古典や古筆を学び、昇華する力を養うことが必要です。

今回審査をする中で、リズム感や構成力のすぐれた作品に出会えたことに感謝しております。また、今年実力を発揮出来なかった方は、次回素晴らしい作品を発表して下さい。期待しております。

(角 廣行)

## 写真の部

デジタル時代になり誰でも押せば簡単に写真が写せる時代になりました。それだけにその見せ方や質が大切になります。今回審査をするにあたり、表現力以前の技術的な面が気になる作品が目立ちました。惜しくもピントが甘いものやトリミングしすぎて画素数が足りないといった基本的なことができていないもの、あるいはシャープネスのかけすぎ、彩度の上げすぎで不自然になっているものなど、過剰な加工をすることで返って技術力の荒さが出てしまい損をしている作品もけっこうありました。ポートレートの作品も光を捉え切れていない惜しいものがたくさんありました。

写真は撮ることも重要ですがそれだけでなく、大きさを考え美しいプリントに仕上げ、それに合ったマットの色を選び額装し、いいタイトルをつけるところまで、ひとつひとつきちんとやって作品になります。大賞の「光訪る紅の谷間」はそういう意味で、抽象的なながらも技術的にも表現的にもとても美しい作品でした。

(藤岡 亜弥)

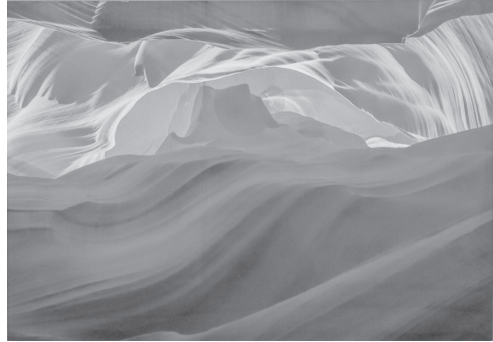
## 《作品講評》

市美展大賞 写真

「光訪る紅の谷間」

溝口 智司

この作品と対峙された方は「これは写真？ それとも絵画？」と一瞬戸惑われると思います。作品に身を乗り出して細部を見ているうちにどんどん引き込まれて、実像と虚像の間で自分の意識が揺れ動くような楽しい感覚を味わうに違いありません。おそらく撮影地は奇岩がたくさんある米アリゾナ州のアンテロープキャニオンだと思われそうですが、作者がそれを目の前にしたときの驚きと感動が作品上に見事に表現されています。



長い年月をかけて風雨の浸食作用によって形作られた赤い砂岩の渓谷。その断層は美しい縞模様となって光のあたり方によりさまざまな色のグラディエーションに変化します。まさに自然の芸術なのですが、その造形美や幻想的な空気感をまるで精微な絵画のように切り取った構成力には感服いたしました。デジタル処理の技術だけではなく、撮影時の構図や絞りの決定、プリントさらには額装のマットの選定にいたる細部まで計算された作品であるといえます。写真の持つ可能性を大きく広げたという意味でも、この作品は今年度の大賞にふさわしいものと言えるでしょう。

今後も素晴らしい作品を見せてくださることを期待しております。おめでとございます。

(船尾 修)

市美展準大賞 平面

「記憶の森—みずうみ」

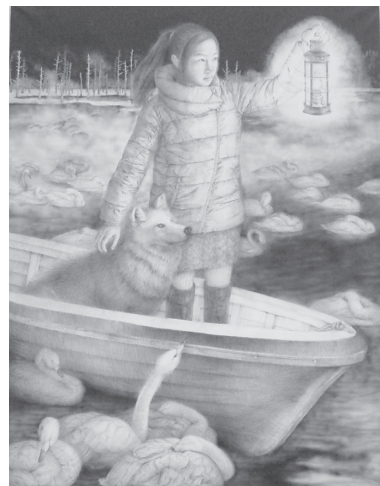
徳原 貴美子

100号の大作である。暗い森の湖にこれから小さなボートで漕ぎ出そうというのか、カンテラをかざし、愛犬を従えた少女。湖に多くの白鳥が静かに憩っている。何やら今からファンタスティックなドラマが始まりそうな気配である。

作品は鉛筆を主に、色数を極力抑えて描き込まれている。近寄ってみると、水彩絵の具を使ったような着彩やぼかし、彫り傷のような白線など、技法の多様さに驚かされる。この丁寧な描写と色彩、計算された構図がうまく調和し、見ごたえのあるものとなっている。

次の作品ではどんな素敵な展開があるのか楽しみである。

(小田 善郎)



市美展準大賞 立体

「雨水」

木本 多津子

この作品の素材は陶です。この他に伝統的なスタイルの陶芸作品もたくさん出品され、すぐれた作品も多くありましたが、立体造形として訴える作品で、先ずこれが目に留まりました。他に類が無い形態で個性的な存在感があり、屋外のさらに宇宙的な広がりのある印象も受けました。

具体的に見ますと、形状は、口まわりが非常に太く、前に斜めに傾いた鉢状の形。大きさは縦52.6cm×横51.5cm、高さ25.0cm。中の深さ16.0cm。正面と裏面に鋭い切り込みがあり、形のアクセントとして引き締めています。中はU字面で輪状の段と色の変化があり、奥行きを感じます。全体の表面は、作家の工夫した処理で、この作品の題名のような、情感あるものとなっています。側面から見ても各所に気遣いが感じられる優れた作品です。



(吉賀 将夫)

市美展準大賞 書

「大輪の花」

村田 美由紀

本作品「大輪の花」は、題材を身近な花火大会に求め、その感動的な光景を書で表現したものと思われる。大字部の大胆な構成は、冒険的であるが、大輪である花火の変幻自在なかたちをイメージするかのように、気宇壮大にして、様々な角度から豊かな展開が見られる。余白を生かし、花火を思わせる動きを軽快かつリズムミカルに筆致に表わしている。文字の大小、墨の潤濁、遅速緩急の変化があり、行の揺らぎは自然体で、自由にしてまとまりを持つ。続いて細字部「夜空に大輪の花が咲く」は巧妙に対比的に添えられ、立体的な奥行きを見せる。線質は明るく冴え、柔軟で暖かみがある。また、書法においては、よく錬磨され懸命に取り組まれたであろうことが窺え、この度の「書」の部の第一席として選出するにいたった。書の古典に裏付けられた確かな書法をさらに研鑽されれば、一層豊かな表現となる。



(森 哲之)

市美展準大賞 写真

「わぁ！すごい」

中村 啓太郎

写っているのは作者の娘さんでしょうか、それともお孫さんでしょうか。無数のシャボン玉を前にして喜色満面の少女の表情に思わず見とれてしまいます。どの方もそうだと思いますが、写真を撮る原点というのはおそらく家族や友人と過ごす楽しい時間を永遠に閉じ込めておきたい、という気持ちの表れだと思うのですね。そういう写真を撮る喜びや写真の本質というものにあらためて気づかせてくれるような、軽やかで楽しい気持ちにさせてくれるすばらしい作品といえます。

シャボン玉は一瞬で消えてしまいますし、どこへ飛んでいくかわかりませんから、実際の撮影では狙ったようにはなかなか撮れないと思います。作者が狙って撮ったのか偶然に撮れたのかわかりませんが、一瞬のタイミングを逃さずにシャボン玉を空間に大きく入れて画面を切り取った構成力には思わず唳られました。



(船尾 修)

周南市美術展運営委員会 委員

- 委員長 西崎 博史 (周南文化協会 会長)  
有國 美恵子 (周南市連合婦人会 副会長)  
河村 純一郎 (洋画家)  
原田 洋子 (元周南市教育委員)  
藤本 満俊 (陶芸家、周南文化協会陶芸連盟 会長)  
有田 順一 (周南市美術博物館 館長)

